

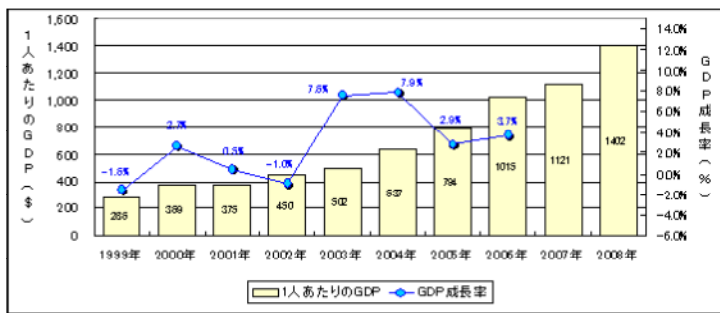
1. 概要

- 国土：923,773km²（日本の約2.5倍）
- 人口：15,132万人
 - サブサハラアフリカ人口の約20%を占めている
- 首都：アブジャであるが、最大の都市はギニア湾に面したラゴス
 - ラゴスの人口は1000万人以上
 - 西アフリカ地域の経済拠点となっている



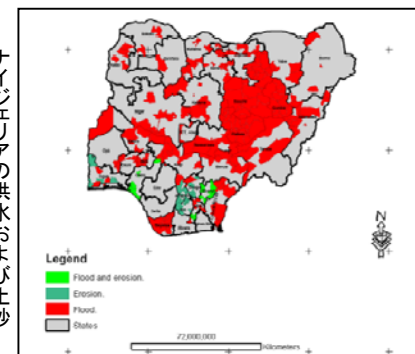
2. 特徴

- 地理・気候
 - 中央のジョス高原と東部国境のアダマワ高原を除けば、海拔500mを越えない平坦な地で、中央部をニジェール川が南北に貫流する。また、その河口に巨大なデルタを形成している。
 - 南部は高温多湿の熱帯雨林気候で5～10月は雨季
 - 北部はサバナ気候で、国境付近では乾燥気候となる
 - 沿岸地域には年間降水量が2000mmを超える地域もあるが、ほとんどの地域では明確な雨季と乾季があり、降雨は6～9月に集中する。
- 経済情勢
 - ナイジェリアは総歳入の約71%、総輸出額の約88%を原油に依存している
 - OPEC第5位の産油国でありながら、長年の軍事独裁等を理由に原油収入が適切に利用されておらず、貧困の緩和、インフラの整備が進んでいない
- 水資源
 - 国内には主に4つの主要流域が存在：「ニジェール川流域」「チャド湖流域」「南西沿岸流域」「南東沿岸流域」
 - ナイジェリアを流れる河川の多くは国際河川であるため、「ニジェール流域局」「チャド湖流域委員会」に加盟している
- 水利用
 - 農業用水に約68%、水道用水に約21%、工業用水に約10%
 - 人口あたり取水量は61.12m³/年となっており、日本(695.8m³/年)の約11分の1
 - 主に河川表流水が使われており、地下水は補完的に使われている



過去10年間における1人あたりのGDPの推移

ナイジェリアの洪水および土砂災害に対する脆弱地域



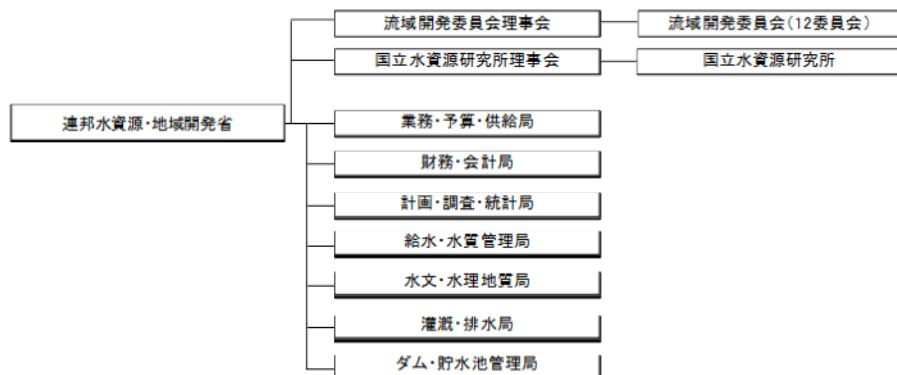
ナイジェリアの水に関する主な動き

3. 上下水道事業

- 上水道
 - 給水を受けている人口は約12%、下水道接続人口は5%となっている
 - 上水道による給水はほとんどが州の水会社によって行われている。
 - 無収水率は約50%と高く、そのほとんどは漏水や不法接続によるものであり、増加傾向にある
- 下水道
 - 下水道はアブジャとラゴスの限られた地域にのみ整備されており、その他の地域では未整備となっている

4. 水に関する行政機関

- 連邦水資源・地域開発省：
 - 食料・畜産生産の増大及び地方住民の生活向上に重点
- 国立水資源研究所
 - 水資源関係技術者の訓練・要請、大規模水資源開発プロジェクトに関する技術研究、水資源管理、流域開発、水関係法制定・規制等に関する計画支援、その他外国機関や国際機関との協力

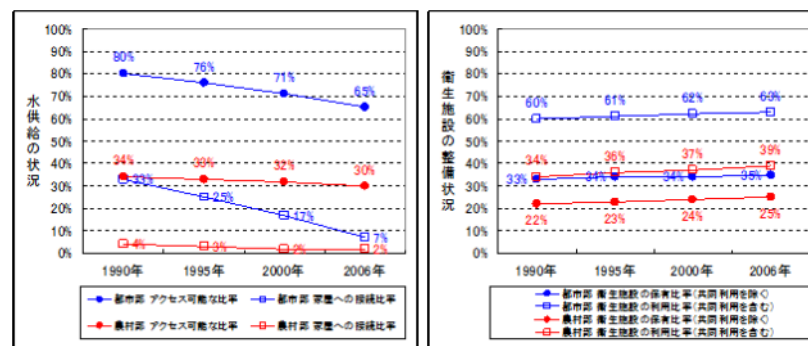


5. 水に関する政策

- Vision 21
 - 1997年に国家開発計画として「Vision 2010」が策定された。
 - このなかで3つの主要項目の一つとして『国民生活の基本的要求(水・食料・健康・住居及び教育)の確保』が上げられている
- 国家の繁栄に関する国家政策
 - 2004年にVision 21を受けて制定
 - 水供給に係る「国家給水衛生政策」の目標を踏襲している

6. 課題とニーズ

- 総合水資源管理
 - 水資源や水文状況に関するデータが乏しく、水資源管理の意思決定に必要な情報が十分に揃っていない
 - ニジェール川をはじめ、ナイジェリアの水資源の多くは越境河川であるため、国際河川の管理も大きな課題
- 農村部における給水施設の確保
 - 不衛生な手掘り井戸が多く、水因性疾病による子供の死亡率が高い
- 上水道事業の運営改善
 - 人口が急速に増加している郊外都市においては整備が追いついていない
 - 受益者からの料金徴収を行うための適切な組織や管理体制が整っておらず、資金確保が課題
 - 2000年に策定された国家給水衛生政策では、水事業の維持管理における民間セクターの役割を重視



ナイジェリアにおける水供給の状況と衛生施設の整備状況